

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 7 日現在

機関番号：32642

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05665・19K20869

研究課題名(和文) オランダに居住するクルド系住民第2世代が送出国の政治運動に共感する要因

研究課題名(英文) Factors that the second-generation Kurds in the Netherlands sympathize with the political movement in Turkey

研究代表者

寺本 めぐ美 (TERAMOTO, Megumi)

津田塾大学・国際関係研究所・研究員

研究者番号：40788981

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、オランダに居住し、トルコに出自を持つクルド系住民第2世代が、トルコのクルド政党であるクルディスタン労働者党(PKK)が展開する「クルド・ナショナリズム」に共感する要因と、彼/彼女たちがPKK関連組織の活動に参加する契機を明らかにすることにあった。ノン・エリート層の第2世代がPKKに共感し、関連組織の活動に参加する背景として、トルコでの政治状況や、オランダにおけるトルコ系住民との緊張関係に加え、オランダ社会で相対的に低い社会経済的地位に留まるという経験が、第2世代の目を自身の出自に向けさせてきた可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2000年代に入ると、西ヨーロッパに居住するクルド系住民は、トランスナショナル視角に関する研究分野において移民・難民の一事例として取り上げられるようになった。先行研究は、クルド人がドイツとトルコ、またはオランダとトルコという二国間にまたがって展開する政治的活動を分析した。ただし、こうした研究はトルコ系住民とクルド系住民のトランスナショナルな活動の比較や類型化を重視している。これに対して、本研究はクルド系住民の政治的活動の動機・背景を明らかにするものである。

研究成果の概要(英文)：Kurdistan Workers' Party (PKK), established in Turkey in 1978, promoted Kurdish nationalism by advocating independence from Turkey and a federal system. One of the factors that influences the sympathy of second-generation Kurds toward Kurdish nationalism is the characteristics of the Kurds as an ethnic minority in their country of origin. Tension has arisen between the Turks and the Kurds in the Netherlands because of the opposition in Turkey between the PKK and the Turkish government. Moreover, it is possible that the experience of staying in a low socio-economic position has turned the eyes of the second-generation Kurds on their origins.

研究分野：移民研究

キーワード：トランスナショナルな政治運動 在外クルド人

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、西欧諸国の移民統合に関する研究潮流を批判的に再検討するという問題意識があった。先行研究では、反人種差別、統合、多文化主義の実現といった、移民の受け入れ国内での権利要求に焦点があてられてきた (Brubaker: 2004)。日本の国際社会学的な研究においても、受け入れ社会における移民の包摂と排除の問題や、移民の権利保障といった受け入れ国内部での課題を中心に考察される場合が多い (梶田: 2002, 2005, 宮島: 2015)。他方でこうした研究は、本研究が焦点をあてるオランダに居住するクルド系住民の事例に見られるような、移民が送り出し地域における政治的課題と共に掲げる「ナショナル」な要求について十分に検討してこなかった。研究代表者のこれまでの研究から、クルド系住民の活動には、受け入れ国内での権利要求だけに留まらず、分離独立や連邦制を求める「クルド・ナショナリズム」という出身地域での政治運動を支える側面があることが明らかになっている。

本研究は、こうした問題意識にもとづき、受け入れ国の移民政策という分析視点に加え、送り出し地域における歴史的経緯や政治的展開がクルド系住民に与える影響という国際関係学的な視点を重視した。送り出し地域でクルド人が差別や抑圧に曝されてきたことや、クルド政党と各国政府の厳しい対立は、定住先でのトルコ系住民とクルド系住民の関係性に国境を越えて反映され、クルド系住民の活動に影響を与えてきたと考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、オランダに居住し、トルコに出自を持つクルド系住民第2世代が、トルコでクルディスタン労働者党 (PKK) が展開する「クルド・ナショナリズム」に共感する要因と、彼/彼女たちが PKK 関連組織の活動に参加する契機を明らかにすることにあつた。PKK は 1978 年にトルコで設立され、トルコからの分離独立を目指して武装闘争を展開してきた。考察にあたっては、オランダにおける 1990 年代以降の統合政策に加え、クルド地域における歴史的経緯や政治的展開がクルド系住民の活動に与える影響を重視した。ただし、クルド系住民の中にはクルド人としての意識を表明しない者、PKK に批判的な者、トルコの政治から距離を置く者等の多様な人々が存在することに注意が必要である。本研究が焦点をあてるのは、特に「クルド・ナショナリズム」に共感し、PKK 関連組織で活発に活動を展開する人々である。

## 3. 研究の方法

本研究では、クルド系住民第2世代が「クルド・ナショナリズム」に共感する要因と、彼/彼女たちが PKK 関連組織の活動に参加する契機を明らかにした。主な分析対象となったのは、高等教育を受けず、高度な職業的スキルも持たない、ノン・エリートのクルド系住民第2世代である。1990 年代以降の統合政策は、オランダ語能力や学歴の向上、労働市場へのアクセスの改善といった、移民・難民の社会経済的上昇を重視した。ノン・エリートの第2世代は、これらの統合政策の指標を満たすことができなかつた人々である。こうしたオランダでの排除ともいえる経験が、どのように第2世代の目を自身の出自に向けさせ、「クルド・ナショナリズム」への共感を促してきたのかを検討した。

西ヨーロッパに居住するクルド系住民の活動に関する先行研究は、PKK が特にドイツにおいて「周縁化された第2世代」を動員してきたことを指摘している。しかしながら、こうした研究は実証が十分であるとは言えず、クルド系住民がなぜ動員されたのかという背景についても明らかにしていない。

また、「クルド・ナショナリズム」に共感する要因として、トルコにおける歴史や政治による影響を考察した。ノン・エリートの第2世代は、オランダでの生活の中で、トルコ系住民からの、「クルド人 = 山岳トルコ人 (貧しい二級市民)」といったネガティブなステレオタイプ化や優越的な意識に基づいた差別に曝されてきたと考えられる。さらに、トルコ政府と PKK の対立といった政治状況はオランダにおけるクルド系住民とトルコ系住民の関係性に緊張をもたらし、第2世代が自身をクルド人であると意識せざるを得ない状況をつくり出してきたと考えられる。

ただし、クルド人であることを意識し「クルド・ナショナリズム」に共感することは、PKK 関連組織の活動への参加と直接結びつくわけではない。第2世代が PKK 関連組織の活動に魅力を感じる要因として考えられるのは、PKK の武装闘争への肯定的な評価や、関連組織が第2世代の直面するアイデンティティの危機の打開や自己実現の場といった役割を担ってきたという点であると考えられる。分析方法としては、ノン・エリートのクルド系住民第2世代や PKK 関連組織のメンバーに半構造化インタビューを試みた。さらに、PKK 関連組織やその他のクルド組織が発行する雑誌、機関誌等の収集、分析を行った。また各種図書館で、クルド系住民の活動に関する資料も収集した。

#### 4. 研究成果

2018年度の研究目的は、クルド系住民第2世代がPKK関連組織の活動に参加する背景を、組織の側から考察することにあつた。成果として挙げられるのは以下の二点であつた。第一に、2015年以降西ヨーロッパ全域でPKK関連組織の大規模な改編がなされたことが明らかになつた。それまではトップダウン型の組織編成であつたが、改編はボトムアップ型を目指すものである。改編の背景について、またノン・エリート層に与える影響については今後の検討課題となつた。第二に、クルド組織幹部へのインタビューでは、組織側はノン・エリート層の動員について具体的戦略を持たず、彼/彼女たちの自発性を重視していることが強調された。ノン・エリート層が組織の活動に参加する背景として、トルコでの政治状況や、オランダにおけるトルコ系住民との緊張関係による影響が挙げられた。

2019年度の研究目的は、クルド系住民第2世代がPKK関連組織の活動に参加する背景を、組織の側に加え、第2世代の側から考察することにあつた。2019年度には、2018年度の現地調査でクルド組織幹部から紹介いただいた第2世代にインタビューを試みた。加えて、西ヨーロッパで最大のクルド人人口を抱えるドイツにおいて、ボンにあるクルド研究センターや大学図書館にて資料収集を行った。収集した資料を分析した結果、クルド系住民第2世代が、クルド研究センター等が主催するコンピュータ講習会等に積極的に参加してきたことが明らかになつた。ただし、こうした講習に参加するものの、社会経済的地位の上昇を果たすことは容易ではない現状がある。2019年度の調査で、ノン・エリート層がPKK関連組織の活動に参加する背景として、トルコでの政治状況や、オランダにおけるトルコ系住民との緊張関係による影響が挙げられたことに加え、オランダ社会で相対的に低い社会経済的地位に留まるという経験が、第2世代の目を自身の出自に向けさせてきた可能性があることが明らかになつた。

本研究の学術的独自性と創造性として、移民統合に関する研究や国際社会学的な研究に加え、国際関係学的な視角を持つ学際的な研究であることを挙げることができる。そのため、オランダの移民政策研究とクルド系移民研究の両者に資することができる。第一に、西ヨーロッパの中でも移民への支援に積極的なオランダで、そうした政策がクルド系住民の「ナショナル」な活動をどのように促進するのか、逆に制限するのかという視点から統合政策を捉え直すことができる。第二に、送り出し地域における歴史や政治が、定住先でのトルコ系住民とクルド系住民の関係性に反映され、クルド系住民の活動に影響を与えるという国際関係学的な視点は、2000年代に入ってから西ヨーロッパにおけるクルド系住民の活動に関する研究に見られるようになった。ただし、学術書として刊行されているものは、2013年に発表されたスウェーデンにおけるクルド系住民の若者の活動を検討した一冊のみである(Eliassi: 2013)。このことは、本研究が国際的な研究水準からみても創造的なものであることを示している。先行研究は、スウェーデンに居住する、中東各国に背景を持つクルド系住民の若い世代に焦点をあてた。送り出し地域での差別や抑圧の経験を踏まえながら、トルコ系住民とクルド系住民のスウェーデンでの日常生活における相互作用を分析している。

#### 【引用文献】

Brubaker, Rogers, 2004, *Ethnicity without Groups*, Harvard University Press.

Eliassi, Barzoo, 2013, *Contesting Kurdish Identities in Sweden: Quest for Belonging among Middle-Eastern Youth*, Palgrave Macmillan.

梶田孝道編, 2002, 『国際社会学[第2版]』名古屋大学出版会.

梶田孝道編, 2005, 『新・国際社会学』名古屋大学出版会.

宮島喬他編, 2015, 『国際社会学』有斐閣.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 寺本めぐ美	4. 巻 11
2. 論文標題 地方自治体における多文化主義の意義と限界 オランダ・ハーグ市の政策とクルド組織の活動から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 移民政策研究	6. 最初と最後の頁 159-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺本めぐ美	4. 巻 35(2)
2. 論文標題 オランダにおける「クルド・ナショナリズム」の展開 クルド系住民第2世代の政治意識の分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中東学会年報	6. 最初と最後の頁 71-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 宮島喬・佐藤成基編 寺本めぐ美（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 263-284
3. 書名 包摂の政治か、排除の政治か	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----